

北大産婦人科は、産科・生殖医学分野（水高尚典教授）と生殖内分泌・腫瘍学分野（櫻木範明教授）で構成。互いに協力して優れた産婦人科医を養成するため、医局を一般社団法人化したWIND（女性の健康と医療を守る医師連合）（櫻木代表理事）の下、教室運営を一体化しており、全国に先駆けた取り組みに注目が集まる。

産婦人科の教室は1 断外来、胎児心エコー した婦人科悪性腫瘍の923年に開講。20 外来、産後、避妊外来、 機能温存手術に長けて00年の機構改革に伴 新生児1カ月健診外来 おり、北大方式の自律い、2つの分野に分か を設けている。 神登温存広汎子宮全摘術は世界的に高く評価された。水上教授は01年、 研究は、▽早産の予 術は世界的に高く評価された。水上教授は01年、 知と予防▽抗リン脂質 されている。生殖内分 泌（不妊症や腹腔鏡手 術）、ウイメンズヘル

医局法人化で一体運営

市中病院と医師を育成

それぞれ教授に就いている。同門全員は420人になり、各地で活躍する。

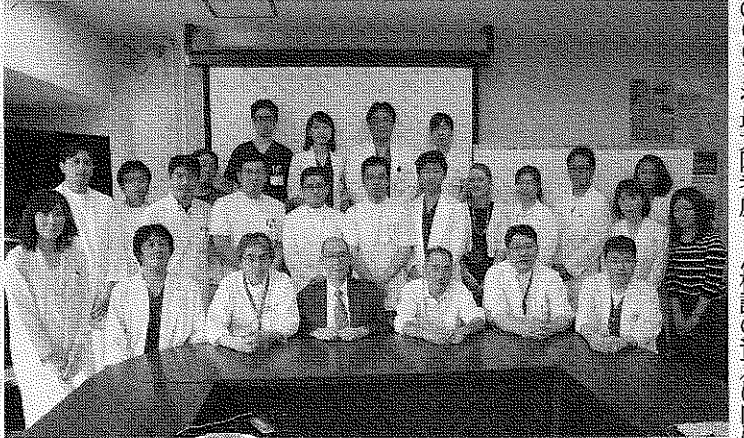
産科・生殖医学分野は、産科病棟に併設した周産母子センターで産科グループと新生児グループに分かれ、道内全域のハイリスクの妊婦と新生児の管理を担う。外来では一般産科外来産科妊婦外来産科特殊健診外来に 加え、遺伝・出生前診

抗体と産科異常▽妊娠 中毒症のゲノム疫学解 析と発症予防▽新胎児 治療法の確立▽出生前 染色体、遺伝子診断、 臨床遺伝学▽習慣流産 の免疫学的異常の解明 研究では体癌の分子生 物学的発生機序の解明 に加え、新しい分子マ ーカーや分子標的治療 を追究する。子宮頸がん 検診の普及に向けて

ス（更年期障害、骨粗 鬆症、女性ホルモン治 療、漢方治療）、泌尿 婦人科など、婦人科領 域を広く対応する。 国内外の多施設共同 臨床試験にも参画。研 究面では体癌の分子生 物学的発生機序の解明 に加え、新しい分子マ ーカーや分子標的治療 を追究する。子宮頸がん 検診の普及に向けて

教室探訪

北大産婦人科・WIND



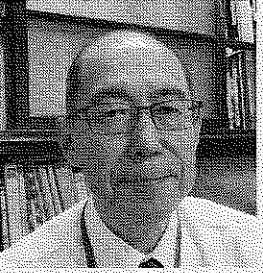
2分野がタッグを組んで若手医師を育成する

江別市や道対がん協会と協定を結び、同市内で自己採取HPV検査を推進。17年3月まで実施し、有効性をアピールするとともに、道内全域への検診普及の足掛かりとする。

教室運営を統括するWINDは、08年に発足。寄付講座「総合女性医療システム学講座」と共同で、大学と市中病院の連携を深め、勤務医が働きやすい支援を行うとともに、学部教育から専門医研修まで一貫して産婦人科医を育てるシステムの構築を目指す。

社員（医局員）はおよそ160人。平均すると毎年5人が全国から入社しており、セミナーや説明会などを通じ、リクルート活動を展開している。産婦人科医の魅力について幹事長の山田宗弘特任講師は「出産から終末期まで、すべてのライフステージに関われる。内科と外科の両方の側面があり、自らの興味や体力に合わせてスキルアップできる」と、若手医師にアピールする。

6月には道と協定を結び、産婦人科医を派遣している中小都市の5病院（浦河赤十字、倶知安厚生、富良野協会、八雲総合、網走厚生）に対し、働きやすい勤務環境の整備を支援していくこととなった。具体策は道と調整を図っていく。



櫻木範明 WIND代表理事

04年から始まった医師臨床研修制度によって、初期研修先は大学だけではなく、市中病院に広がった。市中病院を選択した初期研修医がそのまま後期研修も残った場合、ずっと同じ病

院に居続けるため、経験できることに限りが生じ、研修内容に偏りが出ている。そこで私たちはWINDを立ち上げた。北大の2つの分野と関連病院がタッグを組む、市中病院を選んだ医師であっても、WINDという組織の社員としてさまざまなタイプの病院をローテートしながら研修できるプログラムを提供している。17年度から予定されている専門医制度を先取りし

QOL最重視の技能を

た形だ。今春の後期研修医は7人が入ってくれた。大学も関連病院もそれぞれの特色をアピールしながら、若手医師のリクルート活動をさらに推進したい。

産婦人科医はメスを持つ。QOLを最重視できるだけの技能を身につけてほしい。北大ではそこにこだわって育成する。臨床に根差した研究を重視しており、さらなる治療の進歩に貢献を果したい。